

平成26年度 実施計画・事務事業評価（事後評価）シート

実施計画

1 基本事項

部等名	市民福祉部	課等名	健康増進課	記入者名	立花幸子	内線	874	
事務事業名	育児等健康支援事業（つるんこ教室開催経費）		事業期間	平成 18 年度 ～ 平成 年度				
総合計画上の位置付け	基本方針	思いやりと温かさがはぐくむ健康・福祉のまちづくり						
	施策	健康づくり対策の充実						
	細施策	生涯を通じた健康づくりの充実						
根拠法令・条例、関連計画等	母子保健法							
予算細々目名				会計	款	項	目	細目
	育児等健康支援事業費（つるんこ教室）			01	04	01	04	010

2 事務事業の目的（何のためにするのですか）

・発達に課題のある乳幼児やその保護者が親子のふれあいや遊びを通じて、健康増進を図り対象児の発達を支援するため。
 ・育児に関する専門的な相談の場となり、また親同士で悩みを共有できる場となる。
 ・発達障害が疑われる乳幼児の割合が増加傾向にある中、早期の発達支援により将来の障害を軽減し、二次障害を防ぐ効果がある。乳幼児健診や集団生活で発達に課題のある児とその家族をフォローし、発達支援機関につなぐための場となる。

3 事務事業の概要

H25年度の事業概要	H26年度の事業概要・計画	H27年度の事業計画	H28年度の事業計画
年24回、2グループ実施 「3歳未満児グループ」： 12回、実42人、延べ110人 「3歳以上児グループ」： 12回、実29人、延べ78人 発達に課題がある児とその保護者に対して、児の関わり方の助言や相談、療育につながるまでの支援を行う。	年24回、2グループ実施 「3歳未満児グループ」： 12回、実50人、延べ120人 「3歳以上児グループ」： 12回、実30人、延べ80人 発達に課題がある児とその保護者に対して、児の関わり方の助言や相談、療育につながるまでの支援を行う。保護者の発達支援についての理解を図るため講演会を1回開催する。	H26年度事業の継続。 保護者を含む地域全体の発達支援についての理解を図るため、対象を拡げ講演会を1回開催する。	H27年度事業の継続。

4 事務事業の対象・手段・意図

対象（誰・何に対して行う事業ですか）	手段（対象に対してどのような活動を行うのですか）
発達に課題のある乳幼児とその保護者	児の発達課題を明らかにし、保護者の育児不安を軽減しながら意識の共有を図り、対象児を取り巻く環境整備を図っていく場となる。
意図（活動により対象をどのような状態にしたいのですか）	
発達に課題のある乳幼児を適切な関わり方（環境）により、より良い育ちにつなぎ、将来起こりうる障がい等を防ぐことができる。対象児の保護者は育児に不安を抱きやすいため、育児不安の軽減と虐待予防ができる。	

事務事業評価（事後評価）

1 指標の推移

区分	指標名	単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度目標	27年度目標	28年度目標	最終目標	
									年度	目標値
活動指標	① 教室開催回数	回	24	24	24	24	24	24		
	②									
成果指標	① 参加者数	人	実61 延240	実68 延212	実71 延188	実80 延200	実80 延200	実80 延200		
	② 対象児の発達支援環境整備（療育利用や加配等につながった人数）	人	13	14	29	30	30	30		

※ 活動指標・・・事業内容を示す数値（ボランティア講座開催回数、道路整備延長距離など）

※ 成果指標・・・施策・事務事業の目的達成度を示す数値（ボランティア実施者数、渋滞緩和率など）

2 評価

有効性	成果指標又は実施計画の意図を向上させる余地はないですか	
	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある	理由 教室と地区担当保健師や幼稚園・保育園との連携をスムーズにし、フォローをより細やかに行う。 講演会等の開催により、地域全体の発達支援の理解を向上させ、対象児を取り巻く環境整備を行う。
有効性	廃止・休止した場合の影響はありますか	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	理由 乳幼児健診で発達に課題があり、その後の対応が必要となる対象児と家族の受け皿がなくなり、健診後のフォローの場なくなる。
効率性	成果指標を下げずにコスト削減の余地はないですか (成果指標がない場合は、単純にコスト削減について記入してください)	
	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある	理由 子育て支援センターや福祉施設等から保育士の協力をもらえば、本事業における保育士等の賃金の削減が図れる。
効率性	類似事業の有無と統合の可能性はないですか（市以外の取組含む）	
	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある	理由 児童発達支援事業所において、親子教室を開催する事例がある。
その他	市と受益者との負担割合は妥当ですか（受益者負担がある場合に記入してください）	
	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	理由 本事業には該当しない。
その他	他の市町村では実施している事業ですか（県内の他市の状況等を具体的に記入してください）	
	乳幼児健診後のフォローの場としての親子教室は、どの他市町でも実施している。（阿久根市は月4回3グループ実施。伊佐市は月2回3グループ実施【H26 伊佐市：子育て支援親子教室 事業費9,500千円】）	

3 今後の方向性、改善案等（一次評価）

今後の方向性（総合評価）	方向性の理由、改善案等
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 統合・縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 現行のまま継続 <input type="checkbox"/> 廃止・休止	自立支援法や母子保健法にかかわる乳幼児の発達支援については、今後も体制整備の必要性が高まると考えられる。近隣市の状況を踏まえても、子育て支援事業の一つとして継続していく必要がある。

4 今後の方向性、改善案等（二次評価）

今後の方向性（総合評価）	方向性の理由、改善案等
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 統合・縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 現行のまま継続 <input type="checkbox"/> 廃止・休止	一次評価と同様に現行のまま継続とする。

5 今後の方向性、改善案等（最終評価）

今後の方向性（総合評価）	方向性の理由、改善案等
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 統合・縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 現行のまま継続 <input type="checkbox"/> 廃止・休止	二次評価と同様に現行のまま継続とする。